## 長唄 老松

始メ 扣 ^ 本調子 へ実におさまれる四方の国 ~これは老木の神松の千代に八千代にさざれ石の 実におさまれる四方の国 関の扉ささで通はん

へ厳となりてこけ ツツ 出端

打出 付頭 ヲロシ 刻二 上デ打切 付頭 ヲロシ 高刻 ヒラキョッ半打込

ツヅケ扣 受走 受三ツ地 打放 結長地乙(受走 受三ツ地 打放 結扣上ゲ 受頭 ウケ イヤ△、ハ、ハァ 地 高刻 打切 受頭 ウケ 頭二段 オロシ 打切

へ身は繋がるる イヤ 天タ

へ泉を汲める心地せり まず ・ヤア チャンく 社だんの , へ北に峨々たる青山に彩る雲のへ方を見てあれば

<u>^</u> ト、三ツ地 ツヅケ ツヅケ扣〇、たなびきて

ス Δ 0 へか 0 ぜェ 0000 にィ ・ひらアりィ ハヲ へ閃き渡る此方には 

**〜翠帳紅閨のよそほひ** ツヅケニトッタン

ンヤ

 $\triangle$ 

0

0 ヤア *^* へ昔を忘れず右に古寺の舊蹟あり ト、 三ツ地 ツヅケ トリ

ス 〇 ス 〇 ハヲ ッ へ晨鐘夕梵の響き へたゆることなき ヲシ 眺めさへ

**〜赤間硯の筆ずさみ此処に司を** 

頭二段ヨリ 高刻 地頭ノベ 打上

打放 結地頭 打下 結本上ゲ へしるしけり

へ幾世の思ひ限り知られず喜びも理りぞかし何時までも、へ名あるほとりに住吉の「松の老木も若木を語る恥ずかしさ」たべ松といふ文字は変れど待つ言の葉の「そのかひありて積む年に ただ変らじと深緑 嬉しき代々にあひたひの年に 寿祝ふ常葉木の調べぞ続く高砂の

へ清きいさめの神神楽 舞楽を備ふるこの家に

、声も満ちたつありがたや

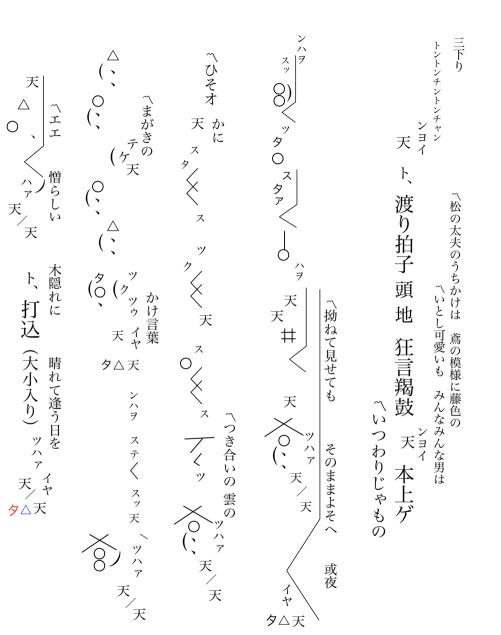
ツハァ 天/ 天

ト、神舞 二段目 三段目

二段目 三ツ受 結ヲドリ受二段 打返 付頭 ヲロシ 高刻 ヒラキ 刻一 上テ長地 高刻 ヲロシ 三ツ受 結オドリ 結地頭ニ段ヲロシ高刻コスニ高刻地頭 刻 打下 一上デ打切 結段頭

三段目 三段目 打下 結オドリ 刻 ヌキ 結地頭二 打下 打放ッ٪ 打込 付頭 ヲロシマクリ 地二 高刻 刻六 高刻 地頭ノベ 上テヲロシ 打込 打込 天 / イヤ トントンチントン

230208 望月太喜之丞編集



スグ 松の 77 25 <sup>チャン</sup> ゆたかに 卜 三ツ地 へ遊ぶ鶴亀の ツヅケニ 行末守れと我神託の齢を授くる此君の ツヅケ扣 オドリ扣上ゲ ッハ〇イヤー 打掛頭 告を知らする

**夕**△

松風合方

アッテ

ハヲ

へ富貴自在の

繁栄も

ПП

ヲシ

X 1+ 9△

段切

へ久しき宿こそ目出度けれ

220208 望月太喜之丞編集

